

Newsletter vol. 26

国際交流センターのススメ、国際交流センターへススメ

国際交流センター課長 宮澤 文玄

4月より国際交流センターの課長を務めることになりました。どうぞよろしくお願い致します。さて着任後、まずは本学の国際交流の状況を把握するため他大学との比較分析をしてきました。その結果、本学は留学生の送り出し・受け入れ数とも同規模の大学としては多い方で、また制度上も充実しており他大学の担当者から羨む声を聞いたほどです。それでも、現在の日本を取り巻く環境から制度は整備されていても、なかなか活用されず留学生も減少し内向きの傾向にあるという面は否めません。

一方、これから学生の皆さんが就職活動をする際、日本企業はグローバル化の道に進んでいるという現実があります。外資系はもちろん国内企業でも既に楽天は社内の公用語を英語にして食堂においても徹底しています。ユニクロ、日産等においても似た動きがあり、採用において国籍で区別しない企業も増えています。(もちろん、その是非については議論の余地があります。)

それでも日本で就職をするのだから海外とは関係ない企業に行けばいいと思う学生もいるでしょうが、今や海外と無関係な企業を探す方が難しい時代かもしれません。そのような折、語学ができないから就職の選択肢が減るといっても残念なことではないでしょうか？そう、好むと好まざるとそのような時代になりつつあります。現代のリテラシー能力とは、読み・書き・そろばんの昔と違い、英語に限らず言語運用能力も求められているのです。

現在、本学では様々な機会を利用して多様な言語が学べる場を提供しています。授業はもちろん、各学科での催しや外国語教育研究センター、生涯学習センターも活用してみてください。そして学内だけでなくぜひ海外にも目を向けてください。外国では言語を学ぶこと以外に、皆さんが大きく成長できる機会があります。国外に出ることで、語学は手段であって目的ではないことへの気付きも体感でき、日本を客観的に見るができるようになるでしょう。また、予測できなかった状況に対する問題解決能力等は、国内でネットを通した情報だけでは身に付かないはずで。

私の学生時代は、留学に対して費用的な補助は一切ありませんでした。現在、競合他大学においても一部の褒賞を除いて費用補助をしない大学は少なくありません。ところが本学では今、正規の留学については50万円(20名)の奨学金に加えて、優秀者には奨



▼2009年海外研修先のInternational officeにて



励金の補助もありますので経済的負担はかなり軽減されることでしょう。大学院生の海外学会発表の補助も昔はなかった制度です。

また、長期では難しいが夏期語学研修なら行きたいという声も聞きますので、そうしたニーズに合わせ今夏より10万円を上限として100名に奨学金を給付するという本学独自の制度や、ボランティアに対しての奨励金の対応も開始しましたのでぜひ奮ってご応募ください。(詳細はG-portやHP参照)

なお、本学にも多くの外国人留学生在籍しており、新しい中央棟には留学生と日本人学生が交流できる場を用意しています。留学に興味がある人はもちろん、学内で異文化交流してみたいという皆さんも大歓迎です。ランチタイム交流会や海外経験者による留学クラブ等いろいろな催しも企画していますので、ぜひ国際交流センターに足を運んでください。

大学内で「交流」と名の付く部署は本センターだけです。交流というのは一方通行で与えられるものではなく、相互によってなされるもの。最初は学内が出发点でも、勇気を持って最初の一步を踏み出すことにより新しい世界が開けてくることでしょう。

国際交流センターが、一人でも多くの皆さんとの交流の場となるよう願っております。

法学部教授の水野所長を筆頭に、センターのスタッフは留学経験や語学に精通しており、皆さんの夢を目標に、そして現実には叶えるお手伝いを致します。留学生の送り出しと受け入れの活性化を国際交流センターのミッションとして掲げ、まずは中央棟2階で多くの皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

Letter from UNSW

経済学部経済学科3年 上原 葉奈子

学習院の皆さん、こんにちは。オーストラリアのシドニーに来てからはや5カ月が経ちました。この5カ月間は信じられないほど実りが多く充実していて、まさに青春という感じです。そんな留学生活に興味を持っている学生の皆さんにニューサウスウェールズ大学(UNSW)での生活を紹介したいと思います。

UNSWは今年創立60周年を迎えた、世界でも有数の優秀な大学です。学部、学科は細かく分かれており、芸術関係からエンジニアリング、食品関係まで約4万7千人の学生がいます。キャンパスも広大で(オーストラリアの中では小さい方らしいですが)学生寮も敷地内に5棟、フードコートも2か所、図書館は13階建て、立体駐車場まであります。オペラハウスなどがあるシドニーの中心市街まではバスで20分弱、サーフィンで有名なボンダイビーチまではバスで40分の所に位置しています(夏になると水着にTシャツを着て授業に出ている学生もいるくらい)。周辺にも小さなレストラン街が広がっていて、寮や下宿の学生で夜遅くまで賑わっています。

授業の形式は日本の大学とは異なり、1つの授業に対して、レクチャーとゼミ形式のチュートリアルという2つのクラスがあります。レクチャーでは教授が講義し、チュートリアルでは講義の内容を深く理解するためのプレゼンテーションやディベートが行われます。教授もチューター(チュートリアルの担当者)も皆フレンドリーで学生に対して積極的に考えること、分からないことはすぐに質問することを要求します。たとえ学生の答えが間違っていたとしても正しい答えを見つけられるように導いてくれます。授業では学生に全てを教えるのではなく、一部を教えたりヒントを与えたりして学生に考えさせます。考えて導き出された事を発言し合うことによって、最終的に全てが分かるようになります。また、学生の発言によって学生だけでなく教授やチューターも新しいことを学ぶという、まさしくgive and takeの関係が築かれています。

「沢山の新しい経験を通して人間的に成長すること」を留学の目的としている学生が多いと思います。新しい環境の中、新しい言語で勉強し、違う人種の人々と知り合い、新しい文化や思想を学ぶ。UNSWはもってこいの環境だと思います。キャンパスを見渡してみると、金髪で青い瞳の美男美女(彼らとの出会いに期待している人も多いはず)はほんの半数くらいで、残りの半数はほとんどアジア人です。もちろん中国人の割合が一番大きいのですが(ビジネス関係の学部では中国人がほとんどの割合を占めています)、インドネシア人、インド人、アラブ諸国人、ベトナム人、スリランカ人など、一体どれだけのナショナルティーが集まっているのかと思ってしまうほど色々な国の人がいます。少数ながらアフリカ系やラテン系の人々もいます。西洋系の人であっても、オーストラリア人では



▲ Law Library

▼ Main Library



なく実はギリシャ移民であったり、アジア人に見えても国籍はオーストラリアであったり

…。約1万2千人の留学生(全学生の4分の1!)を抱えるUNSWはまさに人種のサラダボウルです。1つの大学にここまで多くの人種が集まり、多くの宗教、思想、文化に触れることができるのはオセアニア留学の特権ではないでしょうか。

UNSWへの留学に応募するためにはそれなりの英語能力が必要です。世界的に有名な大学でより優秀な大学からの留学生に囲まれて勉強するためには、確かに自分に自信が持てるほどの英語力がないと大変かもしれません。しかし今頑張って勉強すれば実りの多い、楽しく充実した留学生活が必ず待っています。少しでも留学に興味があるならば、応募条件の英語能力を見てあきらめるのではなく英語の勉強を始めてみて下さい。Because... It's really worth it !!!

英語圏への留学というと、イギリスやアメリカを思い浮かべる学生さんが多いととって、留学しやすい環境が整っています。

★学年暦が2月～11月のため、本学での学籍簿上の留学期間が4月～翌年3月となり、学年をまたがずに留学できる。

★全般的に教育水準が高い。

★フレンドリーな国民性で、比較的親日派が多い。

などなど、魅力がたくさん。そんな留学生生活を満喫している二人の派遣学生に、

世界の国からいただきます。

人文科学研究科委託生 アリエスティアニ ワハユ ペルウィタサリ

今回私は普段作っているナシゴレンの作り方を紹介したいと思います。ナシゴレンはインドネシアの家庭では朝ご飯としてよく食べられています。インドネシアはさまざまな民族がいますから、もちろん食べない家庭もあるでしょう。ナシはご飯、ゴレンは揚げるという意味ですが、日本の焼き飯にあたります。街の食堂やレストランならどこでも食べられるポピュラーな料理です。メニューに載っているのは例えばナシゴレンスペシャル(ナシゴレンの上に目玉焼き)、ナシゴレンシーフード、ナシゴレンソシス(ソーセージ焼き飯)、ナシゴレンカンビン(ヤギ焼き飯)などいろいろあります。お好みに合わせて、シーフードやお肉を加えてお試しください。



INDONESIA



●材料 (1人分)

- 冷ご飯1皿
- パワンメラ(エシャロット) 3個
- にんにく2片
- トウガラシ3～5本(からいのが嫌いだったら1)
- ケチャップマニス大さじ1
- サラダ油大さじ2 塩少々
- 付け合わせ
- 薄焼き卵/きゅうり/トマト/
- エビせんべい/揚げパワンメラ

Life in New Zealand

文学部英米文学科4年 篠原 由莉子

▼大学から見た Wellington の街並み



現在、私はニュージーランドのVictoria University of Wellington (VUW)に留学中です。

留学を決めた理由は、今まで学んできた英語をツールとして海外の大学で授業を受けたいと思ったからです。特に私の日本の大学での専攻(英米文学科)とは異なる分野であるメディア、国際関係学に興味があり、VUWではそれらに加え、観光学の授業も受けられるということで選択しました。ニュージーランドは本当に良い国だと思います。人もすごく温かく、こちらで生活していると時間がゆっくりと流れているように感じられます。また大学がある首都ウェリントンはとてもコンパクトな街で、学生は皆近くに住んでいるため、人と人とのつながりがすごく強く仲がいいです。

私が現在住んでいる大学寮は、アメリカ人3人、ドイツ人2人、香港人1人と私の7人で二階建ての家をシェアして住んでいます。ハウスメイトは皆とてもフレンドリーでよく7人で出掛けたり、ご飯を食べたり、カードゲームをしたりするなどのんびり楽しく過ごしています。また、近所には留学生用のハウスが集まっているため、

週末は近所の人々と度々ハウスパーティーを開いて交流しています。私が住んでいる近所の留学生はほとんどアメリカ出身なので、アメリカ人の友達がたくさんできました。彼らはよくニュージーランドとアメリカの英語、文化の違いについてディスカッションしており、ニュージーランドに留学しているからこそ聞ける話がたくさんあり、面白いです。

授業はコースと呼ばれ、通常1つのコースにつきlectureとtutorial、合わせて週3、4時間あります。どの授業もリーディングは大変ですが、その分授業の内容が濃く、1回のlectureで多くのことが学べ、とてもやりがいがあります。また、エッセイを書くためのリサーチなども時間がかかり大変ですが、エッセイを提出する度、丁寧に添削・コメントをして返してもらえるため、頑張れば頑張るほど学べることは多いと思います。メディア、国際関係学、観光学を学んでいく中で、それぞれの視点から世界、時には日本について考える機会が増え、視野がとても広がり、物事を多角的に考えることができるようになりました。

英語の勉強に関しては、悩みは尽きませんが、友達に「英語上達してるよ!」と言ってもらえる度嬉しいですし、さらに頑張ろうと思えます。大学の勉強を頑張ることはもちろんですが、それ以外にもとにかく色々な人と出会って色々な話をするを心がけています。地元ニュージーランド出身の学生やその他様々な国の留学生とたわいもない話をするだけでも、英語独特の表現から文化・価値観の違いなどといったことまで常に新たな発見があり、毎日とても良い刺激を受けています。

最後に、留学は勉強に追われて大変そうだというイメージを抱いているかもしれませんが、留学で得られるものは本当に言葉では言い表せないほど多く、かけがえのないものばかりです。英語や大学の授業で得られる知識はもちろん、留学生活で出会った友達、経験したことすべてが宝物です。留学しようかどうか迷っているならば、私はぜひ行くことをお勧めします。留学経験はプラスにしかならないはずですが、私も残りの留学生活、1日1日を大切にしたいと思っています。今しかできないことをたくさん経験して胸を張って日本に帰れるようにしたいと思います。

と思いますが、オーストラリアやニュージーランドへの留学も、日本人学生に

- ★治安の良さでは定評がある。
- ★英米に比べ、物価が安く、生活しやすい。
- ★雄大な自然が身近にある。
- ★日本との時差が少なく、家族とも連絡が取りやすい。

現地での生活を紹介してもらいました。

インドネシア編 NASI GORENG (インドネシア風焼き飯)

●作り方

- ①付け合わせのための薄焼き卵は細く、きゅうり、トマトは薄く切る。
- ②バワンメラ、にんにく、トウガラシ、塩をつぶす。(写真左下参照)
- ③フライパンに油を熱し、②を中火で香りがでるまでよく炒める。
- ④冷ご飯を加えて、さらに炒め、よく混ぜたら、ケチャップマニスを加えてよく混ぜる。
- ⑤皿に盛り付け、付け合わせの薄焼き卵をのせ、薄切りのきゅうりとトマト、エビせんべい、揚げバワンメラをそえてできあがり。

普通の焼き飯と何が違うかと言えば、やっぱりバワンメラとケチャップマニスを使うところです。バワンメラはインドネシア料理には必ずといってよいほど使われています。バワンはネギのこと、メラは赤い(色は実は紫に近い)という意味です。ちなみに、にんにくはバワンティ(白いネギ)と言います。ケチャップマニスは醤油に似ていますが、甘みがあり、粘度が高くドロツとしています。

※ケチャップマニスは、日本のスーパーではあまり見かけない調味料ですが、新大久保やインターネットなどで購入できるそうです。

インドネシアでは、「いただきます」や「ごちそうさま」に相当する言葉は無く、食前・食後の挨拶は、宗教などによっても異なるそうです。そこで、食にまつわるインドネシア語を二つ教えてもらいました。「ENAK(エナック)」はインドネシア語で「おいしい」、「KENYANG(クニャン)」は「お腹がいっぱい」と言う意味だそうです。ぜひ覚えて使ってみてください。



▲友人と Sports bar で World cup 観戦

海外留学のための奨学金・奨励金等について

留学にかかる費用は決して安いものではありません。従って、資金面の計画をしっかりと立てておくことも、留学を成功させるための重要な条件の一つと言えます。

奨学金を利用したいと考えている皆さんも多いと思いますので、学内及び学外で募集している海外留学のための奨学金についてまとめてみました。なお、学内手続きを経た留学期間中の大学の授業料・維持費は半額に減免されます。また、協定留学プログラムによる留学の場合は、派遣先の授業料が免除されます。(一部の大学を除く)

●学内の奨学金

名称	採用予定人数	奨学金額	対象者
学習院大学海外留学奨学金及び奨励金	20名程度(うち、10名程度にさらに奨励金を支給)	一人当たり50万円以内(奨励金は10万円以内)	・「留学願」が承認されている者 ※募集時期 年2回(6月及び12月)
学習院大学海外短期語学研修奨学金	100名程度	一人当たり10万円を上限	・夏季休業中、3週間以上の語学研修に参加した者 ※今年度の出願受付期間10月4日～10月8日
学習院大学海外ボランティア活動奨励金	10名程度	一人当たり10万円を上限	・夏季休業中、海外においてNGO、NPO等の団体でボランティア活動を行った者。 ※今年度の募集は終了しました。
大学院学生国外研究発表援助	15名程度	一人当たり10万円を上限	・大学院生 ・国外における研究会等で、発表を行う者(共同研究を含む)。 ※募集時期 年1回(12月)―今年度の出願受付中

※募集内容や応募条件等詳細については、国際交流センターにお問い合わせください。

●学外の奨学金

種別	内容
独立行政法人日本学生支援機構の奨学金	①給付(月額8万円)―派遣学生対象 ②有利子の貸与
地方自治体の奨学金	国内の地方自治体等が主にその自治体の在住者等を対象に実施しているもの
民間団体の奨学金	民間企業等が実施しているもの
外国政府等の奨学金	外国政府等がその国や地域へ留学する日本人を対象に実施しているもの
金融機関による教育ローン	日本政策金融公庫、雇用・能力開発機構、その他金融機関による留学の場合に利用できるローン

※その他、留学先大学等に外国人留学生を対象にした奨学金が設けられている場合もあります。
※募集内容、応募条件等はそれぞれ異なりますので、必ず確認してください。

2011年度協定留学プログラム(第2期) 派遣学生募集中!

国際交流センターでは、現在、2011年度第2期(派遣先:中国、アメリカ、ヨーロッパ等・留学期間:2011年10月～2012年9月)の出願を受け付けています。

募集要項は国際交流センターで配布しています。多くの皆さんの出願をお待ちしています。

なお、2011年度第1期(派遣先:韓国、タイおよびオセアニア等・派遣期間:2011年4月～2012年3月)の募集はすでに終了しました。

2010年度の協定留学プログラムによる派遣学生の皆さんは以下のとおりです。

大学名	派遣学生名
慶北大学校 (韓国)	経済学部経済学科3年 中川 早智
	文学部日本語日本文学科3年 平林 里織
オーストラリア国立大学 (オーストラリア)	文学部心理学科3年 野村 万里奈
ニューサウスウェールズ大 学(オーストラリア)	経済学部経済学科3年 上原 葉奈子
ウェリントン・ヴィクトリア 大学(ニュージーランド)	文学部英米文学科4年 篠原 由莉子
復旦大学 (中国)	法学部政治学科3年 内野 琴水
エディンバラ大学 (イギリス)	経済学部経営学科2年 染谷 大樹
	文学部英語英米文化学科3年 田崎 丸美
マンハイム大学 (ドイツ)	文学部ドイツ語圏文化学科2年 中川 智絵
バイロイト大学 (ドイツ)	文学部ドイツ語圏文化学科4年 入江 彩子
リヨン第二大学 (フランス)	文学部フランス語圏文化学科4年 橋本 佳奈
	文学部フランス語圏文化学科2年 山田 三津子

国際交流センターボランティア募集のお知らせ

国際交流センターでは、留学生対象のイベント(留学生懇親会など)の企画・運営のお手伝い、留学生の相談相手、短期ホストファミリーなどのボランティアを随時募集しています。

今学期より学部1年生の登録も受け付けますので、登録を希望する学生のみなさんは、来室の上、手続きをしてください。

移転しました!

国際交流センターは7月下旬、中央教育研究棟の2階に移転しました。以前より広々とし、ゆっくり資料を見たり、相談できるようになりました。この空間を活用して、多くの学生さんが留学生と交流し、国際交流の楽しさを感じてくれることを願っています。

ぜひ新しいセンターにいらっしゃいませんか?

Newsletter vol.26

October 1, 2010

発行日/2010年10月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html

★表紙の写真/禹 吳穎

●編集後記● グローバル化の時代と言われているが、日本の若者は国内志向型が増えているようだ。自己主張を教育の旨とする欧米は勿論、同じアジアでも中国や韓国のエネルギッシュさに、草食系は青息吐息なのだろうか。確かに、異文化の中での生活は、困難続きかもしれない。言葉や考え方の違いに悩むことも多いだろう。でもそんな苦勞を払ってでも、お釣りくるほど留学は素晴らしい!この時期多くの派遣学生が1年間の留学を終えて帰国する。彼らのたくましくなった顔がそれを物語っている。そんな彼らに再会するのが楽しみである。

【平成22年度国際交流センター運営委員】

所長	水野 謙	(法学部)
運営委員	大久保 直樹	(法学部)
//	Brown, Phillip	(経済学部・外国語教育研究センター)
//	村野 良子	(文学部)
//	谷島 賢二	(理学部)
//	宮川 努	(副学長)
//	中山 高二	(学生センター部長)
//	宮澤 文玄	(国際交流センター課長)